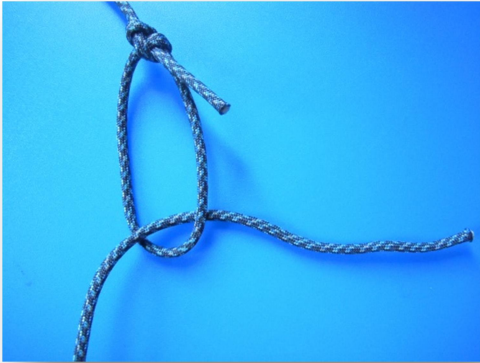


KOBE Hitch

YouTube でひとり親方さんが紹介されているとても便利な結び方です。

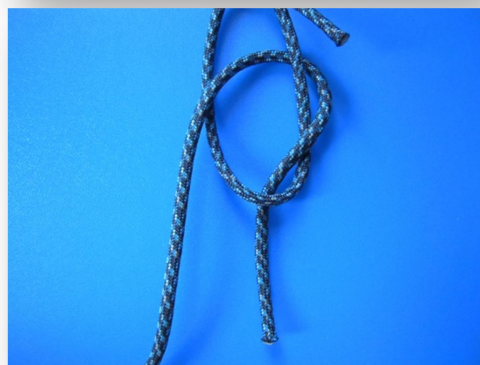
タープを張るときなど、コードにテンションを掛けたいとき、よく金具などを使いますが、この結びを使うと、テンションを掛けながら固定されるので、とても作業がしやすくなります。引けばテンションが高まり、そのまま保持される結びです。



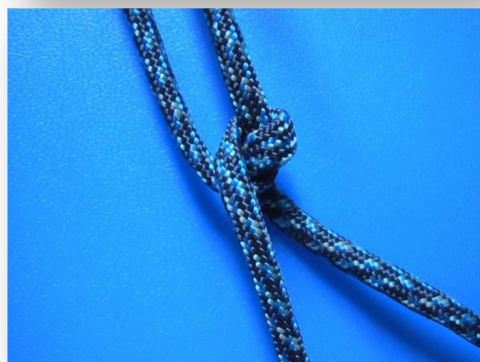
一方のコードの端にはもやい結びなどを使って輪を作っておきます。



この輪を引くためのコードを輪の中に通します。そして輪と通したコードでできた輪の中に、そのコードの端を通します。



コードは輪の中を写真のように通ることになります。これにより、テンションを掛けたとき、引く方のコードは輪によって締め付けられるようになり、保持されるのです。



テンションを掛けたときの状態です。コードの端を引けばさらにテンションを増すことができます。

コードを張るときだけでなく、ものを束ねたりする時にも使えます。1本のコードの一方に輪を作り、コードで束ねてこの結びをすれば、緩むことなく、しっかりとまとめることができます。コードの端は留め結びなどで処理します。

この結び方は資源回収などで新聞紙や段ボールをまとめることにも使えそうです。しかし、予め使う長さにコードを切っておかなくてはなりません。実際の場面ではコードの束から引き出した端から使っていきます。出来れば束ね終えた後からコードを切りたいと思いました。

そこで、このテンションを保持できる仕組みを探ってみました。

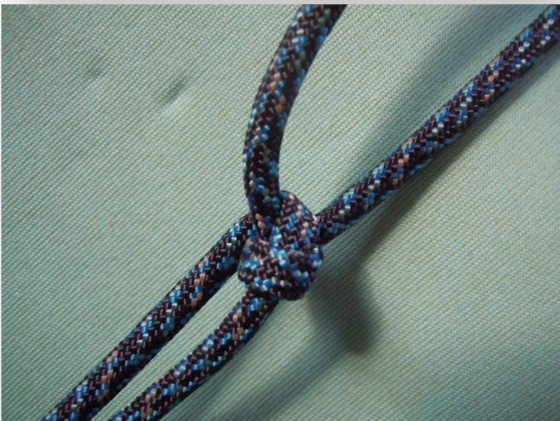


前ページの方法でこの結びを作り、輪を解いてみました。輪になっていたコードの周りをもう一方が2回巻き付いています。



ただ巻き付いていただけでは、テンションの保持はできません。

左の写真、左側が輪になるほう、右側が輪に繋がりテンションが掛かる方です。テンションが掛かる方のコードと輪になっている方のコードに挟まれて、上側に行くコードが保持されるようになっています。



実際の使用場面での様子です。右上と左下にテンションが掛かっています。テンションが掛かるほどしっかりコードが挟まれるので、上側の引く方のコードが保持されています。

さて、この仕組みがわかれば、予めコードを切らなくても、コードを束ねるものに巻き付けて、その端のコードに2回巻き付けてから輪を作れば、この結び方ができます。ただし、その巻き付けたとき、輪に巻いてあるテンションのかかる方のコード

が引く方のコードの上になるよう調整する必要があります。

この結びはしっかりと束ねる作業の一部として使われるもので、仮留めという位置づけです。引いたコードの端を留め結びするなど処理をする必要があります。